

# 緩和ケアに宗教者を

## 東北大准教授 谷山さん 新潟で講演



臨床宗教師について説明する東北大准教授の谷山洋三さん＝新潟市中央区

宗教の枠組みを超えて緩和ケアに当たる「臨床宗教師」や、死や離別の苦しみなどを和らげる「スピリチュアル・ケア」についての講演会が、新潟市中央区の県立がんセンター新潟病院で開かれた。僧侶で東北大

准教授の谷山洋三さん(42)が「ケアが必要な場面で宗教者を活用してほしい」と話した。

同病院主催の「いのちをめぐる連続講演会」の一環。谷山さんは東日本大震災後、弔いや傾聴活動を、キリスト教や神道の宗教者らと共にやってきた。長岡市の長岡西病院に2000、03年、仏教的ターミナルケアを行う「ビハラー僧」として勤務した経歴があり、現在は東北大で臨床宗教師の養成に携わる。

臨床宗教師は、求められれば数珠やロザリオのような祭具や読経などの宗教儀式を用いるが、布教はせず、に他宗教と連携して心のケアに当たる。また、宗教観を押しつけず相談者に寄り添い、傾聴や対話を通じて痛みを緩和するスピリチュアル・ケアも行うという。谷山さんは「遺族の悲しみを癒やすグリーフケアや、在宅医療の場など、様々な場面で臨床宗教師の働きが期待される」と語った。